

唐津線を観光列車が走りました！



佐賀が誇る地酒を試飲する参加者ら



JR多久駅にぞくぞくと降り立つ参加者ら

9月28日(土)にJR九州と多久市などの関係自治体で企画した観光列車が、唐津線で初めて運行され112人が参加しました。

テーマは日本酒！チケットは販売開始から2週間で完売する人気ぶりで、参加者は沿線酒蔵の銘酒やイカ料理などを堪能されました。多久駅では、多久翁さんや孔子の里獅子舞で歓迎の中、地元の東鶴酒造や佐賀市、伊万里市の5酒蔵の試飲・販売と物産展が行われて、楽しいひと時を味わってもらいました。

参加者からは「美味しいお酒に豪華なイカ料理、車窓と楽しい列車の旅でした。良いリフレッシュになりました」など好評の声が上がっていました。

JR唐津線「利き酒」の旅

たくSUNの電気を発電開始！

多久市メガソーラー発電所開始式

株式会社九電工が多久町（多久みず環境保全センター南側市有地）に設置する、太陽光発電施設が完成し、9月26日に発電開始式が関係者、地元住民など30人が参加し行われました。

株式会社九電工佐賀支店長山本泰弘やまもとやすひろさんより「これから年間300世帯分の発電を行うことで、スギの木で換算すると21,000本分のCO₂が削減できる。20年間事業を行う中で、限りある資源の有効利用など学んでいただければと思います。また、地元とともに手を組み事業を行っていきたい」とあいさつ。

横尾市長は「多久市での新しいエネルギーの第一歩であり、新しいチャレンジ。事業者の技術に期待しています。多久市においても新時代の地域活性化に活かしたい」とあいさつしました。

発電開始セレモニーでは、西溪校さいせきこうを代表して岡田美洸おかみひろみさんと相川康太あいかわこうたさんも参加。開始のスイッチを押しました。

また、株式会社九電工より、市内の学校に光電池学習セットが贈呈されました。



▲発電開始セレモニーの様子

東部校6年生「避難生活体験活動」

10/11・10/12

避難生活を体験することで、災害に対する意識を高めようと、東部校6年生の児童42人が2日間の日程で、旧納所小体育館を会場に、避難生活体験活動を行いました。



各グループに分かれた児童は、避難所内でのルール作りや、段ボールなどを使って体育館内を区割りし、生活スペースを確保しました。また、非常食体験や簡易ランプづくりなど避難所での生活を体験し、共同生活での助け合いの大切さを学びました。

交通安全マナーアップキャンペーン多久

9/24

『守ろう交通ルール 高めよう交通マナー』をスローガンに実施された『秋の交通安全県民運動』に合わせ、南多久町で交通安全マナーアップキャンペーンを行いました。



小城警察署はじめ、多久地区交通安全協会、佐賀県自家用自動車協会、交通安全母の会、交通安全指導員、こぼと保育園の園児などが参加しました。

園児たちは「安全運転お願いします」と元気な声で交通安全啓発チラシ等をドライバーに渡し、安全運転を呼びかけました。